

## 新型コロナがなければ「1590 万人」生きていた、平均寿命が 30 年ぶりに短く

3/17 ForbessJaqpann



新型コロナウイルス感染症のために、2019 年から 2021 年の間に世界の平均寿命（ゼロ歳時の平均余命）が短くなっていたことが最新の研究でわかった。

The Lancet に掲載された研究は、Global Burden of Disease による研究の最新報告であり、2019 年から 2021 年の間に世界の平均寿命が 1.6 年縮小したことを示している。同研究が 1990 年代に開始されて以来、安定して伸びてきた平均寿命が今回初めて縮小した。

「全世界の成人に関して、新型コロナウイルス感染症は、過去半世紀における戦争や自然災害を含めたどの事象よりも深刻な影響を与えている」と論文の主著者でワシントン大学健康指標科学准教授のオースティン・シューマッハー博士は語った。

研究チームは、2020 年と 2021 年にパンデミックがなければ生きていたはずの人々が全世界で 1590 万人死亡したと推計した。そのうち 590 万人が 2020 年に、1000 万人弱が 2021 年に死亡した。

しかし、パンデミックが世界中で同じように死亡率に影響を与えたわけではない。80 の国々で、パンデミック期間中に死亡率が年間 10 万人あたり 150 人を超えた年があり、中でも 2020 年のペルー（10 万人当たり 413 人）と 2021 年のブルガリア（同 697.5 人）が特に高かった。

「84%の国と地域でパンデミック期間中に寿命が短くなっており、新型コロナウイルスの破壊的な影響力を示している」とシューマッハー博士はいう。

しかし、レポートには良いニュースもあった。オーストラリア、ニュージーランド、中国を含めたいくつかの国で、パンデミックの早い時期に寿命が延びた。それらの国々ではパンデミック期間中の新型コロナウイルス感染者数が、世界の他の地域よりも少なかったが、それが理由であるかどうかについてレポートは言及していない。

また、小児の死亡率はパンデミック期間中も減少を続け、2021 年の 5 歳未満児の死亡数は、2019 年と比べて 50 万人少なかった。

本研究は、全世界の人口推移にも注目している。2021 年以降、56 カ国で人口が減少したが、低所得国では人口増加が続いた。世界で多くの国の人々が平均して高齢化している。2021 年までの 20 年間に、188 の国と地域で 65 歳以上の人口が 15 歳未満の人口以上の割合で増加している。

「人口増加の減速と高齢化は、今後の人口増加が医療環境の悪い貧困地域に集中していくことともって、社会的、経済的、政治的に過去に類を見ない課題をもたらすだろう。たとえば、若年人口が縮小している地域における労働力不足や人口の急増が続く地域での資源不足などとなる。これらの問題に対処するためには、影響を受ける地域において十分に先を見越した政策をとる必要がある」とシューマッハー博士は述べている。